

第2章 本市における野外環境学習活動の現状と課題

1 野外環境学習活動の必要性

平成14年度より小中学校で新しい学習指導要領が施行され、完全学校週5日制が実施されます。それと同時に、体験的な学習を重視した新たな時間として「総合的な学習の時間」が設置され、子どもの生きる力を育てる学習の一手法として「自然体験」に対する期待が高まっています。また社会的にも、環境に対する関心が高まり、余暇を自然の中で過ごしたいという市民も増えてきており、身近な自然を活用した自然体験活動の場・機会づくりが求められています。

2 野外環境学習活動の実施の現状

野外環境学習に対する必要性が高まるなか、本市では生涯学習活動や市民団体の活動、学校教育などにおいて、地域の豊かな自然を舞台に、自然に親しみ、自然に関する知識・理解を深めるための活動が行われています。

なお市では、庁内の各課や施設により自然観察会や農作業体験活動など、市民が自然に親むことができる機会づくりを行っています。また、地域の自然を活かした野外環境学習関連施設の整備、自然環境に関する情報提供などをそれぞれの部署で行い、市民の学習活動を支援してきました。

平成12・13年度の本市における学習活動の実施状況

学習活動事例	事例件数
自然観察・史跡観察	124
自然の素材を使った遊び ネイチャーゲーム	56
地域の生態系に関する学習	38
生きものの飼育	34
キャンプ・スポーツなど	32
環境保全活動	27
ウォークラリー	22
自然の素材を使ったものづくり	19
農作物収穫体験	16
ハイキング	15
気象観測、天体観測	10
自由研究	9
緑化・ビオトープづくり	4
環境調査	3
フォーラム、発表会の開催	3
指導者研修	1

(複数の活動内容を実施している場合はそれぞれの内容に件数を加えています。)

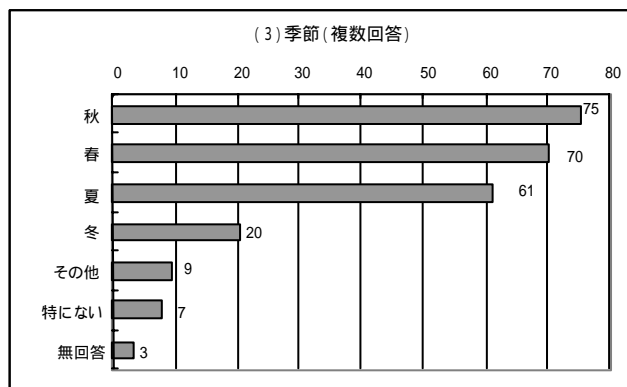
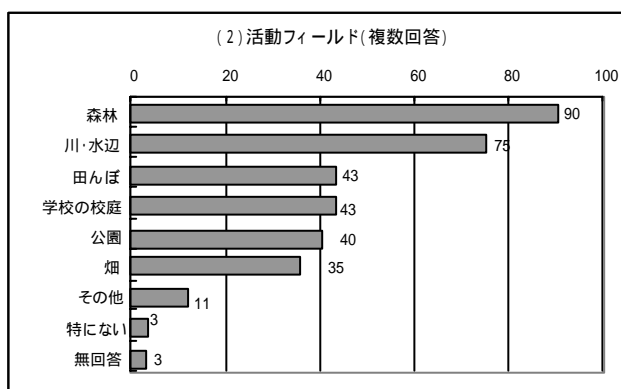
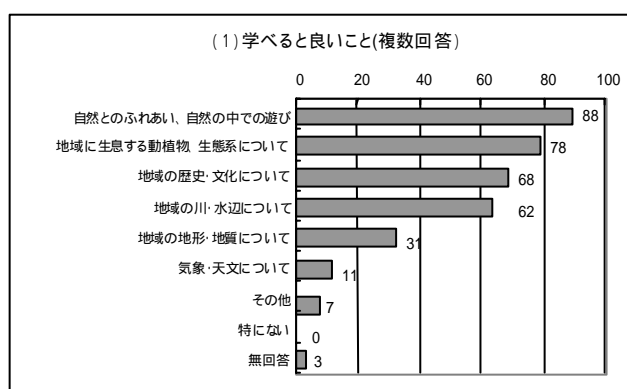
3 野外環境学習活動に関するニーズ

本計画を策定するにあたり、野外環境学習に関する学習プログラムや施設・指導者などについてニーズを把握することを目的とし、アンケートを実施しました。

- ・実施時期：平成 13 年 11 月
- ・対象：庁内の関係各課、公民館、市内の小中学校、こどもエコクラブ、環境に関わる市民団体
- ・回答状況：

	庁内各課	公民館	小中学校	エコクラブ	市民団体
回答数	3 課	28 公民館	70 校	10 団体	3 団体

野外環境学習の内容について望むこと



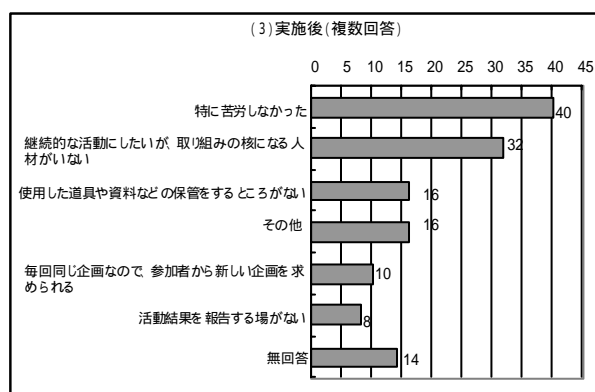
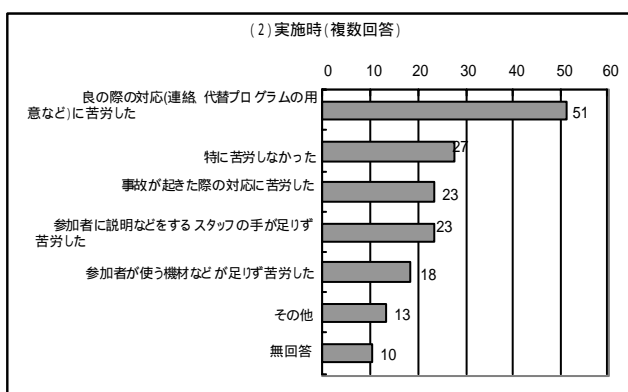
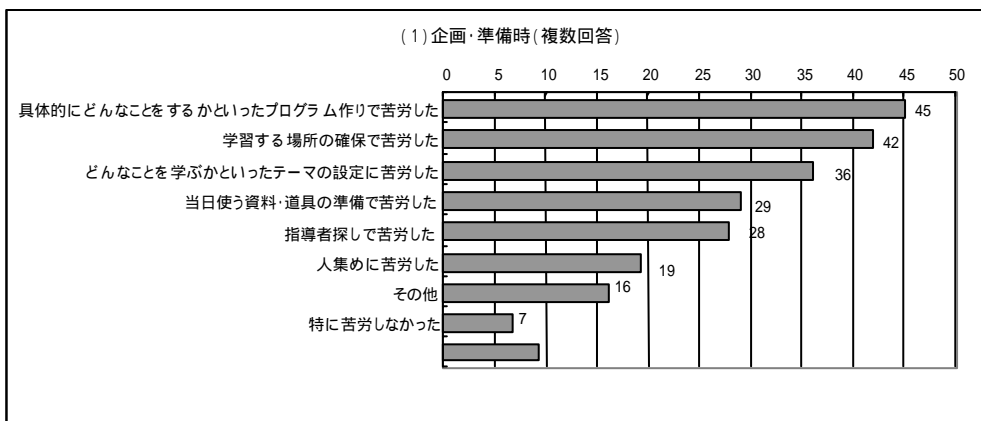
< 結果概要 >

自然に親しみながらの遊びをはじめ、地域の動植物や生態系、川や水辺など自然環境に関すること、地域の歴史や文化について学びたいという回答が多く、自然の豊かな場所での様々な内容における学習意欲が伺えます。

< 考えられる課題 >

様々な場所や対象者などに応じた学習プログラムの展開

野外環境学習を実施する際に苦労していること



< 結果概要 >

学習活動の企画・準備段階については、学習テーマの設定やプログラムづくり、学習の場の確保、指導者やスタッフの確保の面で苦労しているという状況が多いようです。また、いつも同じ内容の活動のため、学習に新鮮さや独創性がなくなっているという意見もありました。

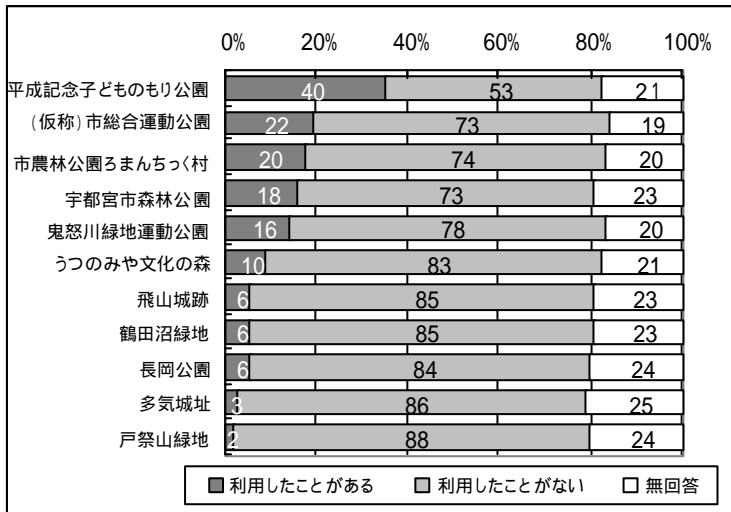
学習活動の実施後については、活動の核となる人材がないという意見があげられています。

< 考えられる課題 >

学習活動の企画・準備段階などにおいて、相談しアドバイスを受けられる仕組みづくりや利用者の相談に応じられる人材の確保

学習活動実施時の様々な状況に対応できる人材や学習活動を推進するための核となる人材の育成

実施場所・施設



< 結果概要 >

「利用したことがある」という回答が比較的多かった施設は、「うつのみや平成記念子どものもり公園宇都宮市冒険活動センター」で、次いで、「(仮称)宇都宮市総合運動公園」「宇都宮市農林公園ろまんちっく村」「宇都宮市森林公園」「鬼怒川緑地運動公園」の順に多いという状況です。

また、各種施設について、水道やトイレ、遊歩道、集会室など施設の整備、案内板の設置、学習施設までの交通手段の整備などの要望があげられています。

< 考えられる課題 >

野外環境学習に利用できる施設のPR

各施設の利用に関する意見の継続的な収集、対応

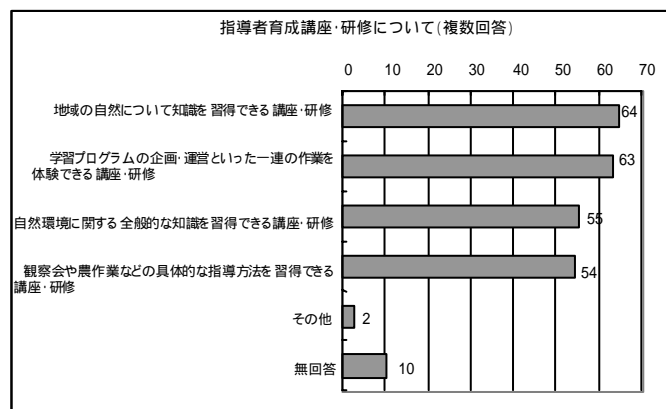
指導者

< 結果概要 >

学習活動の指導者については、指導者を依頼する、本市の職員が行う、もしくは活動を主催するスタッフが指導するというケースが多くなっています。

一方で、自ら指導できるようになることについては、多くの回答者がその必要性を感じています。しかし、指導者養成講座を受講するなどの具体的な取り組みは少なく、どのように指導者を増やしてよいか分からないという状況です。

指導者育成研修の内容については、どの項目についてもニーズが高く、様々な研修の実施が望まれていることが分かりました。



< 考えられる課題 >

様々な分野に関する指導者情報の収集や蓄積、情報提供の仕組みづくり

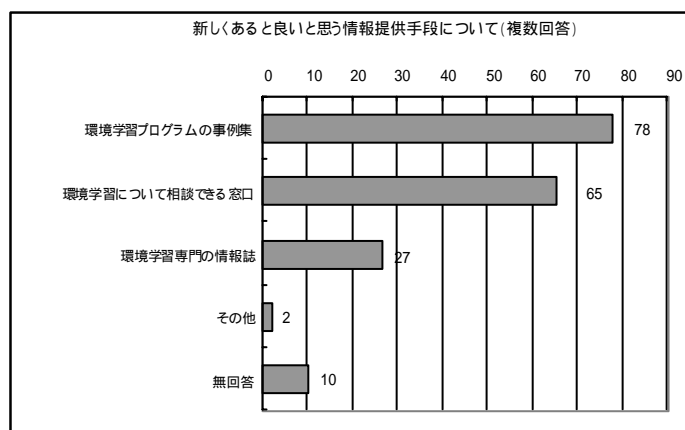
自然環境に関する知識や指導法、学習プログラムの企画や運営の手法を習得できるような指導者の育成

情報提供の方法

< 結果概要 >

宇都宮市環境学習センター「環境未来館」、宇都宮市生涯学習情報システム「マナビス」、うつのみやこども情報センター情報誌、広報など現在ある情報提供手段の活用は全体的に少ないようです。各種情報提供手段については、施設のPR、情報量の増加、情報の更新、システムの改良（操作方法、端末の増設など）などの要望があげられています。

新しくあると良いと思う情報提供手段については、「環境学習プログラムの事例集」や「環境学習について相談できる窓口」が多いという状況です。



< 考えられる課題 >

情報提供手段のPR

利用者の意見を踏まえた情報提供手段の改善

学習プログラムに関する情報の収集、提供

環境学習について相談できる窓口の設置、人材の確保

行政の体制について

< 結果概要 >

庁内の関係各課及び公民館からは、環境学習について扱う部署の明確化、環境学習に関する勉強会、宇都宮市行政情報ネットワークシステム「庁内LAN」を使った情報交換が必要であるという意見があげられています。

市内の団体は、情報提供、施設の充実、活動に対する補助金などの支援、指導できる市民の活用などを行政に期待しています。

学校からは、教師・指導者などに関する意見が多く、教師の増員の他に指導者を確保するための支援が必要という意見が多くみられました。また、事例の収集・提供、相談窓口の設置、学習資料の提供、施設整備、学習活動のための予算確保、保険制度の充実などの要望もあげられています。

< 考えられる課題 >

環境学習について扱う部署の明確化

環境学習に関する情報交換の場・機会づくり

環境学習の推進に関する庁内検討組織づくり

4 今後取り組みをするための課題

これまでの市としての学習活動支援は、いずれも庁内の各課や施設など事業を行う主体により独自に情報や事業実施の手法が管理され行われていました。今後市民にとって充実した野外環境学習活動を展開していくには、これらの情報や手法を市民が総合的に活用できる支援システムが必要な状況にあります。

市民の学習活動を総合的に支援するためには、学習プログラムや指導者、学習活動の実施可能な場所（学習フィールド）など野外環境学習に関する情報をとりまとめ、広く提供する仕組みづくりが必要です。また、学習プログラムの体系化や教材の作成、学習フィールドの効果的な活用、学習活動に関する相談業務の実施など学習をするための環境を整える方法も考えていかなければなりません。また、こうした取り組みを拡充させるためには、庁内間の連携を深め、市民と協力していく学習活動推進のための体制をつくることも重要な課題となります。

